

# 移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>市<sup>し</sup>長<sup>ちやう</sup>室<sup>しつ</sup>

## J A 筑紫 肥育牛部会 博多和牛の普及に向けて

通算88回目となる移動市長室を2月25日(月)に開催しました。JA筑紫 肥育牛部会と懇談を行い、7人の出席がありました。

肥育牛部会は、乳用種・交雑種の肥育経営を主体に昭和42年に設立、今年度50周年を迎えます。地元の稲わらで育つ「博多和牛」の生産・販売を行っており、各種共進会への出品、研修の実施、JA筑紫ふるさとまつりでのPR活動など、博多和牛の普及促進・消費拡大に向けて取り組んでいます。

懇談では、肥育牛部会の概要・略歴をはじめ、博多和牛の取り組み、肉牛生産の様子などについて、報告を受け、意見交換を行いました。

### 組織設立、銘柄和牛に向けて

肉牛情勢にかかるさまざまな問題に組織として対応するため、畜産農家による組織「JA福岡県肉用牛生産者の会」(現在の福岡県肉用牛生産者の会)



が平成14年に発足したこと、銘柄和牛をつくろうと平成15年から動き始め、平成16年に部会員である有限会社三宅牧場(以下、三宅牧場)が組織を代表して「博多和牛」の商標登録を出願、平成17年に登録されたこと、平成20年に生産者と関係団体が一体となった博多和牛販売促進協議会が設立、銘柄確立と普及推進活動が本格化し、活動の幅が広がっていったことなどの報告がありました。

### 「博多和牛」とは?

「博多和牛」は、福岡県内の博多和牛

生産者として登録された農家が大切に育てた和牛の銘柄です。福岡県の自然を背景に牛の健康管理に心掛けて、消費者に「安心・安全でおいしい牛肉」を届けるために生産・販売一体となって取り組んでいます。

主に九州の子牛産地から購入して、おおむね20カ月間、県内産の稲わらを生食とした良質な飼料で丁寧に育てており、その肉は「やわらかでジューシーなおいしさ」が評判です。

### 「一貫経営」と「肥育経営」で生産

肥育牛部会では、以前はホルスタインなど、黒毛和種以外の牛も肥育していましたが、「博多和牛」の立ち上げによって黒毛和種の肥育に一本化してきました。

人工授精により子牛を生産する「一貫経営」の平嶋牧場、市場から子牛を仕入れ肉牛として肥育管理を行う「肥育経営」の平山牧場、永川牧場、三宅牧場が、現在の部会員です。

## 全国、県内でも高レベル 数々の賞を受賞

全国和牛能力共進会（全共）は、5年に一度開催される和牛の改良成果と肉質の優秀性を競い合う全国大会です。別名「和牛オリンピック」と呼ばれています。

福岡県では、県内の畜産農家から出品希望者を募り、全共を想定した子牛の生産、導入、肥育を実施し、本番に向けさまざまな課題を生産者全員で検討を行い、肥育牛部会からは三宅牧場と平嶋牧場が参加しました。

平成29年9月に開催された第11回全共には福岡県から去勢肥育牛第9区に2頭を初出品し、そのうち1頭が三宅牧場の生産で、1等賞を受賞しました。

肥育牛部会では、その他にもさまざまな枝肉共励会・共進会に参加して実績を積み重ね、県内でも高レベルの成績を残しており、それらの受賞歴が紹介されました。



「博多和牛」ブランドロゴ

## 安全・安心でおいしい牛肉を

意見交換では女性の社会参画に向け、夫婦ともに研修を受ける体制を整えたり、経営簿記を学んだりしていること、肥育管理は日々の努力や積み重ねによって結果が出ることで、農家で育つ中で当たり前として思っていた環境は、そうではなかったことに直売を始めて気づき、そのよさを伝えていく役割を感じていることなどの発言がありました。「農村地帯が多い筑紫野市では稲作が盛んなため、地元の良質な稲わらを豊富に与え、良質な牛を育てることができると「今後も県内の生産者をリードする存在として頑張っていきたい」などたくさんさんの思いを聞き、交流



肥育牛部会の各農家が数々の賞を受賞

することができました。  
懇談の中での意見は、今後の市政に生かしていきます。

### 参加者からの感想

- ・自分たちがやっていることをお話しすることがあまりなかったので、よい機会でした。
- ・軒数は少ないけど筑紫野市に畜産農家があるということ、牛がいるということを知ってもらえてよかったです。
- ・市長さんの優しい笑顔に親近感を覚えました。すぐく身近になった気持ちになりました。



## 藤田市長の一言

肥育牛部会のこれまでの歩みやその歩みの中での実績、それぞれの肥育についての苦労話を聞かせていただく機会を得たことは、これからの農業政策を考える上で、大変貴重な時間となりました。

皆さんが一生懸命、精魂込めて取り組んである博多和牛が賞をもらい、ネームバリューが広がり、喜んで食していただける。そのような好循環が生まれていることを、非常にうれしく思います。市としても、今後とも農業の発展に努めてまいります。

皆様、本当にありがとうございました。

